

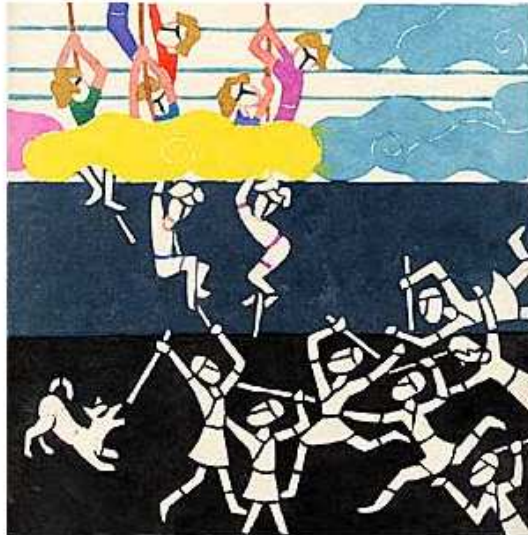
蛇と父親

一匹の蛇が子供を殺しました。子供を殺された父親は嘆き悲しみました。子供の墓を作った父親は、その後斧をもって蛇の穴にむかい、蛇の出てくるのをじっと待っていました。しばらくすると、蛇が頭をだしたので、父親は思いきり力をこめて斧を振り下ろしましたが、斧は蛇をはずれて、そばにあった石を割っただけでした。失敗した父親は蛇の仕返し、怖くなり蛇に「仲直りしよう」と提案しましたが、蛇は「私はこの割れた石をみれば、殺そうとしたあなたを憎く思うし、あなたは、子供の墓を見るたびに私を憎く思うでしょう。仲直りなんて意味のないことですよ」と言いました。



よい人間と悪い人間

よい人間と悪い人間は昔から存在した。よい人間は、力が弱かったので常に悪い人間どもから迫害を受けて、仕方なく天に逃れて行きました。そして天の神に「どの様にすればよいでしょうか。」と尋ねました。すると神様は、「悪い人間の中に入るには、皆で連れ立って行かないで、一人ずつ入って行くように」と指示されました。この時から、人々の周りには悪い人間はワンサといるが、よい人間は天から一人ずつ降りてくるので巡りあうことが、少なくなった。



河を渡るロバ

ロバが大きな荷を背負って河を渡っていました。荷の中身は塩がつまっていた。河の中ほどにさしかかった時、足がすべって横倒しになりましたが、起き上がった時は、塩が溶け出して荷物は軽くなっていました。その後、再び大きな荷を背負って河にさしかかりましたが、この前の事を思い出して、河の中ほどにきた時、わざと横倒しに倒れました。以前の様に荷物が軽くなって起き上がれると思っていましたが、荷物の中身は海绵だったのです。充分に水を吸った海绵の重さにロバは立ち上がることができず、ついに溺れ死にました。

